

鈴木鎮一著「音のない音楽」Suzuki Method 才能教育 176、夏 2011、
才能教育研究会 2011年6月15日刊を読む

音のない音楽

1. 音楽の表現の中で、最高のデリカシーと迫力をもつものは、音の空白の場において表わされる。
2. 音の空白ということは、音のないところのことである。
3. 音楽は音と、無音との二つから成り立っている。だから、無音の分野と音との分野のそれぞれのあり方の優劣によって、音楽の優劣が成り立ってゆく。
4. 無音の場所のむずかしさは、音の分野のむずかしさと変りはない。
5. そして実際に、優れた演奏家達は音の世界の名人であると共に、無音の世界の名人であって、音だけの分野の名人というものは存在しないのである。
6. 思うこと、感じること、考えることは無音の世界。為すこと、言うことが音楽でいう音の出ている世界。
7. 思うこと、考えること、感じること、反省することのない人に名人はいない。
8. 音楽において、音のないところでの感覚の優劣が、音楽的能力の高さのバロメーターになると同じように、人間はその思うこと、考えること、感じることの優劣によって、人間としての高さ、低さがつくられてゆく。
9. 優れた人々の演奏を聴いて、思い上がった人々の中には、多く、まずその欠点を並べ立てて、自分の期待に外れた点を強調する。
10. そうしたことが極めて多く行われている。
11. 優れた人々の優れたところがわからない人々に起こる現象だと考えてもいいだろう。
12. 他人の欠点ばかりが目につく自分に気がついたときには、自分の目が低いものばかりに働く能力をもっていることについて悲しむ人になりたいものである。

- 13．他人の美しい心や感覚や愛情をひしひしと感ずることの出来る能力をもつことは、幸福な人間になることへの近道だし、他人の欠点ばかりとらえる才能に発達してゆく人々は、高いところをみる力を失ってゆく不幸な人々であろう。
- 14．優れた人々の演奏を聴いて、その優れた高さがわかる人になることのむずかしさを知る人々は、他人を称える人々の人間の高さをすることも出来よう。
- 15．音のない音楽の中に人の力を知り、言葉のない人間の感覚の交流の中に相手の人間の価値は示されてゆく。
- 16．子供達の中に高い人間感覚、心、能力を育ててゆくために、バッハやモーツァルトや仏陀やキリストや.....高く尊い人々の世界を眺めるとき、私どもは救われるものを感じる。

P6 ~ 7

[コメント]

「音の空白」の大切さを自覚させてくれる素晴らしい文章。

- 2011年7月12日 林 明夫記 -